

令和5年度第3回岡崎市民病院地域医療支援委員会 会議録	
開催日時	令和5年10月26日(木) 午後2時00分から午後2時45分
開催場所	岡崎市民病院 西棟第1～3会議室
委員	(出席者) 12名 小林 靖、田那村 収、升川 浩子、織田 盛久、高村 俊史、片岡 博喜、 金澤 一徳、山下 晋、永田 昌子、志賀 由香、伊奈 秀樹、鳥居 行雄 (欠席者) 1名 鈴木 正博
事務局	地域医療連携室管理監 青木 崇、副室長 蟹江 尚美、副主幹 岸 こずえ
会議次第	1 院長挨拶 2 議題 (1) 地域医療支援病院業務実績(令和5年4月～令和5年8月)について (2) 地域医療支援病院講演会について
傍聴者	1人
議事要旨	<p>1 院長挨拶 (内容省略)</p> <p>2 議事 (議長) 議題1「地域医療支援病院業務実績(令和5年4月～令和5年8月)について」の説明を事務局に求める。</p> <p>(事務局) 紹介率について、前年度60%台が続いていたが今年度4月以降70%を越え、目標の80%越えに近づいている。例年、8月のお盆、夏休みの時期は紹介状なしで受診される患者が多く、紹介患者の減少が見られる。今年度も8月は紹介率の低下がみられた。</p> <p>紹介患者の増加に向けて、今年度地域医療連携室ではクリニック訪問を積極的に行っている。3名のスタッフが中心になって、担当エリアを決めて広報誌、地域医療連携室だよりを持参し、医療機関の方と顔の見える関係づくり、そして意見などを聞いている。その結果、地域のニーズの把握や問題解決への手がかりになっている。</p> <p>逆紹介率に関しては、昨年度末2月より100%越えとなっている。病院内の医師に向けて医局会などで外来をスリムにし、「逆紹介推進」を周知しており、徐々に医師が理解して働きかけていることが要因となっていると思われる。</p> <p>地域医療支援病院承認要件である紹介率65%以上・逆紹介率40%以上に関しては、条件を満たしている。</p> <p>病床および医療機器の共同利用実績について、開放病床について稼働率が常に60%を越えている。これは小児科病棟の稼働率がほぼ100%となっているためである。</p> <p>救急医療の提供実績について、救急患者数は、例年7月8月は多く、この夏の時期で、熱中症の患者が増えたり、また人の行動範囲が広がったり動きも増えるため、その分事故やトラブルなども多くなるためだと考える。</p>

診療に関する諸記録の閲覧については、医師への問い合わせが多くあり、過去の手術や治療の内容確認が主な内容である。

月別相談延べ件数について、地域医療機関との連携を円滑に行うこと、また患者・家族からの苦情・相談に応じている。認知症疾患相談に関するものが多くあり、社会福祉士がどのように関わるかなどの体制を考えていくことが、今後課題となっている。

退院調整をした患者数について、7月は退院カンファレンスがやや少なく、退院調整に関わる患者が少なかったという状況である。

地域連携クリニカルパスの新規登録件数に関しては、今年度4月以降も、昨年とほぼ同様の割合となっている。脳卒中、大腿骨の連携パスがほとんどで、この二つのパスは、藤田医科大学岡崎医療センターと共通の運用をしている。大腿骨連携パスは2022年4月、脳卒中連携パスは2023年4月より稼働しており、パスの新規登録数にはあまり変化はない。

(議長)

紹介率は昨年より少し上がった。市民病院という立場上、紹介状なしで来院される方が多いため8割に届かない。それに反して逆紹介率は高いが安定した患者の再診患者が多く、より逆紹介を促進して本来の基幹病院のあるべき姿である新しい患者を受けていきたい。しかし診療科によっては、特に乳腺外科、泌尿器科は、紹介を受けてもらえるクリニックが少なく、実質安定した患者を外に紹介することができないというのが当院の課題でもある。

三次救急病院としては、救急車で来院の患者よりウォークインの患者が多いのが当院の特徴で、今後高齢化社会を迎えると救急搬送患者が増えることが予想されるため、このウォークイン患者が地域の医療機関に受診されるという意識付けを地域で啓発活動していかないと困ることになる。

(委員A)

地域連携クリニカルパスについて、パスの名称は「肝パスではなく「肝がんパス」ではないか。

(事務局) その通り

(委員B)

退院時共同指導は入っているか。またそのデータはあるのか。

(事務局)

科別のみのデータである。次回会議で提示する(今後データを提示する)。

議題2 「地域医療支援病院講演会について」の説明を事務局に求める。

事務局より説明。

地域医療支援病院の承認要件には、「地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有すること」とあり、当院でも研修会を行っている。昨年その研修の見直しをした。元々、診療科、各局での主催が中心であったが地域医療連携室が主催の「地域医療支援病院講演会」という名前の講演会を開始した。今年度は「がん」に関する内容で計画し、診療科ごとではなく、疾患別での講演会を行っている。

演者は医師、看護師、薬剤師、放射線技師など、テーマに沿って演者の医師を中心に決めている。

視聴者内訳は、医師、歯科医師以外は、看護師、医療技術局、薬剤師など、院外ではケアマネージャー、介護指導員、看護師などで、会によって視聴者の職種の内訳にばらつきもみられる(実際の配信映像を視聴)。

ZOOM ウェビナーによる生配信を行っており、12月からは録画による配信に

変更していく予定である。
より多くの方にご視聴いただけるよう今後に向けて、意見をいただきたい。
(委員 B)
開始時間が 19 時 20 分というのは以前は 20 時からであった。この方が参加しやすいと思うどうか。
(事務局)
医師会の講演会が 20 時で時間が重ならないようにしたためである。
(議長)
時間を変更してどうだったか。
(事務局)
大きな変化はない。20 時前に終了してほしいというご意見もあり。
(委員 C)
医師会の勉強会がかなりの頻度で 20 時からであるため、20 時からとなると視聴が難しい。録画したものをホームページから閲覧できるようにし、時間は 20 時で医師会の勉強会に参加されない先生やその他の方が視聴しやすい時間にしてはどうか。
(事務局)
今後は、オンデマンドも考えている。
(議長)
地域医療連携室主催ではない講演会も色々行っており、地域の医療従事者の資質の向上に努めている。
(委員 A)
ACP の研修の院外 13 名は、どのような方か。
(事務局)
医療機関の看護師、ケアマネージャーや介護関係の方であった。
市内でも ACP に関する勉強会が行われており、多くの方が参加されている。
(委員 D)
藤田医科大学岡崎医療センターとの調整はしているか。
(事務局)
曜日が重ならないようにしている。

(議長)
他に意見及び質問がないことを確認する。
本日の提出議案は全てご承諾いただいた旨を報告し、会議の終了を宣する。
次回は令和 6 年 1 月 25 日木曜日 14 時からを予定している。

(以上)